

2020 推・帰・社

受 験 番 号	
------------	--

医学部保健学科

小論文 I ・ II 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この冊子のページ数は9ページです。1から3ページが小論文 I , 4から9ページが小論文 II の問題です。落丁, 乱丁, 印刷不鮮明の箇所等があった場合は申し出てください。
3. 問題冊子の余白は下書きに使用してもかまいません。
4. 解答は所定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

医学部保健学科

小論文 I 問題

次の英文を読んで、問1～5に日本語で答えなさい。

For many home healthcare aides, verbal abuse from clients or clients' family is a real problem, a U.S. study suggests. Caregivers who reported verbal abuse were also more likely to report physical abuse, researchers found. Verbal abuse can hurt these aides' long-term health and lead to higher turnover rates, said senior study author Margaret Quinn, who is director of an industry outreach initiative called Safe Home Care Project at the University of Massachusetts in Lowell. "There already are not enough home care aides to take care of the aging population," Quinn told Reuters Health on the phone. "This problem is going to increase rapidly."

Quinn's team recruited 954 home healthcare aides and had them fill out questionnaires about themselves and their experiences at work. More than one in five caregivers, or 22%, reported at least one incident where they had been verbally abused in the past 12 months. (1)The actual number of incidents may have been higher, as people's ability to recall relatively minor incidents of verbal abuse may decrease over time, the researchers say. Among aides who reported verbal abuse, 17% said they had been yelled at or spoken to in an angry or humiliating tone, 10% said they were made to feel bad about themselves, 6% reported racial, ethnic, religious or personal insults and 5% said they had received verbal threats of harm.

Dementia in the care recipient was strongly linked with instances of abuse, Quinn's team writes in the journal *Occupational & Environmental Medicine*. Quinn and her team suggest training aides to handle patients with dementia, which sometimes causes aggressive behavior. Quinn says a caregiver may arrive in the home knowing that her client has dementia but not really knowing what can be done to alleviate symptoms. "I think including the aide and having them more integrated into the care team, including and especially with clients with dementia could help both the client as well as the aide," said Quinn. "In the United States, home care aides are often not included as part of (the) medical team," Quinn added, referring to what she says are considered health professionals such as physical therapists.

Aides with unpredictable schedules were more likely to face verbal abuse than those with predictable working hours. Making hours predictable for caregivers, though challenging, could help address employee turnover, the research team suggests. Cramped work conditions were also linked with higher odds of verbal abuse for the aides. The researchers suggest that assessing the client's home in order to be sure that aides will have space to perform their care tasks might help reduce some of the risk of verbal abuse.

(JAPAN TODAY, July 30, 2019 より一部改変して引用)

(From reuters.com. © 2019 reuters.com. All rights reserved. Used under license.)

注)	home healthcare aide	在宅介護員
	verbal	言葉の
	caregivers	介護人
	turnover rates	離職率
	questionnaire	アンケート
	humiliating	屈辱的な
	dementia	認知症
	alleviate	軽減する, 緩和する
	physical therapist	理学療法士
	unpredictable / predictable	予測できない / 予測できる
	address	(問題などを)正す
	cramped	窮屈な, 狭苦しい
	odds	確率

問 1 言葉による虐待は、在宅介護員にどのような影響を及ぼし、何をもたらす可能性があるかと述べているか、答えなさい。

問 2 Margaret Quinn らが実施した在宅介護員へのアンケートでは、どのくらいの人が言葉による虐待を受けていたか、答えなさい。

問 3 下線部(1)のように考えられる理由は何か、答えなさい。

問 4 在宅介護員が受けた言葉による虐待の種類を列挙しなさい。

問 5 本文で述べている、言葉による虐待を減らす可能性のある方法をすべて答えなさい。

医学部保健学科

小論文Ⅱ問題

1 次の文章を読んで、問1、2に答えなさい。

1991年の夏である。「瀬戸内海に浮かぶ日本一の長寿郷」と呼ばれた東和町（現山口県周防大島町の一部）を訪ねた。すでに高齢化率が42.2%に達していたにもかかわらず、80代や90代のお年寄りたちが仕事を持って生き生きと暮らし、老々介護の助け合いが機能していた。(1)「日本の輝く未来」を見た！

と、早とちりして町役場で実情を確かめると「もう限界です。これ以上高齢化が進めば介護力を外国人に頼るしかない」と暗い表情。それから四半世紀、今やマンパワー対策の本命はロボットに取って代わられた。

埼玉県で活動する社会福祉法人の一つ、栄寿会（馬場信幸理事長）はユネスコの世界遺産に登録された和紙の産地、小川町と隣の寄居町の施設で介護ロボットを活用する。「ペッパー君」こと、ヒューマノイド型（人型）ロボットPepperだ。

デイサービスのレクリエーションタイムで活躍する様子を見てきた。ペッパー君が腕をしなやかに動かしながら「バンザイシマショウ」「モットオオキナコエヲダシテー」などと声をかけると、お年寄りたちはその身ぶり手ぶりをまねて体操をする。体がほぐれると『雪やこんこん』を合唱したり、ゲームやクイズに興じる。ときどきお年寄りとの“意思疎通”がずれるのもご愛嬌。座は盛り上がり笑いがはじける。ペッパー君の声かけに「オオーッ！」と答えるノリの良いおばあちゃんも。ロボットだと認知する人もそうでない人も50分間、疲れを見せず楽しんでた。認知症のケアにも効果的だという。

月間コストは、ロボット本体のレンタル料と介護アプリ使用料を合わせてざっと10万円。人件費の削減効果は非常勤職員一人分くらい。見守り型ロボットの導入は介護職員1人分の削減にあたるといわれる。省力化の評価はその程度だとしても、競争が激化するデイの顧客獲得につながり、広告塔的な宣伝効果があった。一方で、課題はさまざま。一つは介護アプリを自力で開発すること。このための要員として理系の大学卒を採用するという。

介護ロボットのベンチャーや介護事業者の話を開けば聞くほど、無限の可能性を秘めている。日経新聞によれば、総務省はAIを活用して要介護高齢者に話しかけ、「体調を聞き出したりして、症状を類推したり、医師への診察を提案したりする」コンピューターを開発して「介護分野で活用する」ため、「2018年度から民間介護事業者やソフトウェア開発などと実証実験を始める」（10月12日夕刊）。

介護報酬の改定や補助金など制度的な支援が本格化すれば開発・製造コストを下げ、性能向上やさらなるコスト低下を加速するという好循環を期待できる。次世代型介護ロボットの開発・普及を促すため利用者が参加する産・官・学連携のNPO法人ロボットビジネス支援機構は11月20日、設立記念シンポジウムを開く。

気になるのは技術的、制度的な期待が膨らむ一方で、大切な何かが忘れられはしないかということだ。ペッパー君を活用する法人幹部は介護ロボットの未来を期待しながらも、さらにAIが進

化すれば、コミュニケーション能力が並の介護職をしのぐロボットが人間にとって代わり、人間の役割は古典的な身体介助に逆戻りしそうと予想する。(2) ロボットと人間の関係性がひっくり返るという懸念である。在宅介護の家庭用ロボット開発を究極の目標とする心あるベンチャーは「なぜロボットに人間を介護させるのか」と自問自答する。「要介護の独居老人が介護ロボットによる世話を拒否すれば生活できず、死も覚悟しなければならない時代になったら、私はそれを拒めるのか、答えは『解らない』」(大島伸一国立長寿医療研究センター名誉総長)。

ケアの機械化は必要である。だが、介護マンパワーの確保という大義を得た産業化のスピードアップに目を奪われている世相に、不安を感じる人がもっといてもいいのではないか。

(出典：尾崎 雄 ロボット介護の近未来 心のケアと身体介助の主役が逆転する? ケアマネジメント 28(11): 66, 2017.)

問1 筆者が下線部(1)のように感じた理由を、解答欄 -1に80字以内で記しなさい。

問2 下線部(2)についてあなたの考えを、解答欄 -2に200字以内で述べなさい。

2 次の文章を読んで、問1、2に答えなさい。

近年、さまざまなメディアにより絵本遊びが子ども、とりわけ赤ちゃんの発達によいという話
が取り沙汰されている。特に気になるのは、絵本遊びが親子関係によい効果をもたらすというも
のである。あまりに、当たり前のように語られているので、きっと多くの先行研究があるにちが
いないと思い調べてみると、そのことを直接的に検討した研究は国内外の論文においてついぞみ
つけることができなかつた。この学部生時代の経験が、筆者を絵本研究の道に走らせることにな
った。長年、絵本の研究を行っていると、さぞ絵本が好きなのであろうと尋ねられることが多い。
実際、母が保育士であったことも幸いして、家には絵本をはじめとする児童書が溢れており、ど
ちらかといえば絵本は好きだったし今でも好きである。しかしながら、絵本研究を始めたきっか
けは、絵本遊びの効果に対して懐疑的であったことなので、絵本研究をしている者としては少し
変わっているかもしれない。

親子関係に与える効果については明らかになっていないものの、絵本が赤ちゃんの発達、特に
言語発達に与える効果については、実はこれまで多くの研究がなされている。1992年にイギリス
のバーミンガムで始められた、赤ちゃんとその養育者に絵本や絵本読みの手引きを手渡す「ブッ
クスタート」と呼ばれる事業が開始されてからというもの、そのプロジェクト評価も兼ねた研究
により、乳児期の絵本遊びがのちの言語発達や就学後の学業成績によい効果をもたらすことが分
かってきている。

しかしながら、乳児期における絵本遊びが親子関係、母子関係に与える効果という側面におい
ては、科学的検証がほとんどなされていないのが現状である。

では、絵本と母子関係についての関係が研究者によってまったく語られていないかといえばそ
うでもない。これまで著明な研究者や絵本作家らの注意深い観察によって、絵本と良好な親子関
係構築に関連がありそうであることは言及されてきた。たとえば、バウアーは、絵本遊びは母子
の愛着が形成されやすい場面であると主張している。また、赤羽は、絵本遊びには母子の結びつ
きを密接にする効果があると述べており、佐々木も、絵本遊びによって母子の相互信頼性が向上
する可能性について言及している。

このように、多くの研究者が絵本を親子関係にとって好ましいものであると捉えるのはなぜで
あろうか。それには、子ども側というより大人側の要因が大きく関わっている可能性がある。絵
本が他の遊びツールと異なるのは、幼い子どもの場合、読み手という大人が介在しない限り遊び
が成立しない点である。絵本を好む母親は養育態度が良好であったという質問紙研究において
も、絵本遊びを通して、大人はより子どもの行動や内面に注意を配り、その結果、子どもへの関
心や期待が高まる可能性が考察されている。つまり、乳幼児期における母子の絵本遊びは母親が
子どもを観察するよい機会となっており、その観察によって母親の態度が成長すると考えられる
のである。

また、絵本遊びと言語発達に関連について論じた研究においても同様の可能性が示唆されている。たとえば、絵本遊び場面において、母親が子どもの発達に合わせて働きかけの方略を変化させていること、子どもの発達に伴い、言語的やりとりの主導権が母親から子どもに移っていくことが指摘されている。つまり、絵本遊びにおける母親の子どもに対する働きかけは、母親本位で行われるわけではなく、子どもに合わせて調節されつつ行われるものなのである。

(1) これらの言及から、幼い子どもの絵本遊びには母親のかかわりが必須であること、そして、絵本遊びにかかわるなかで母親は子どもの様子を注意深く観察し子どもに合わせて調節された働きかけを行う機会を与えられその機会を通して母親の行動が変容することが、母子関係の質を向上させると推測できる。

母子関係の質を捉える代表的な概念である愛着を対象とした多くの研究では、愛着の質を規定するさまざまな要因が検討されている。愛着とは、時間や場所を超えて持続する対人間の感情的なつながりと定義され、質の高い母子関係は安定した愛着と表現されている。安定した愛着の規定因としてはさまざまな要因の存在が示唆されているが、そのなかでも、愛着の安定性に対し比較的影響力のある近因として考えられているのは、母親の感受性に代表される「母親の子どもに対する働きかけ」に関連したものである。母親の養育行動は多くの研究によって明らかに直接的に愛着の安定性に寄与することが示唆されている。つまり、母子関係の質を変容させるためには、子どもの行動の変化よりも母親側の行動の変化が重要であると考えられているのである。

特に、安定した母子愛着を形成する主要な要因の1つは、母親の応答性と呼ばれる概念である。母親の応答性とは、乳児の信号を察知し、的確かつ即座に反応する特性であり、元を辿れば、エイズワース、ベル、ステイトンが母親の「感受性」として定義づけた概念に含まれるものである。養育者が子どもに対し、応答的に働きかけることで、子どもは愛着対象から自分が受け入れられるべき存在であるとする内的作業モデルを築き上げる。母親の応答性を介入により改善した研究では、何も操作していない統制群にくらべて介入群の母子の安定愛着割合が有意に増加することが認められている。母親の応答的な養育により、子どもは母親から受け入れられる存在であるという認知的枠組みを形成し、その結果、安定した愛着が形成されるのである。絵本を介した母子相互作用では、母親の応答的な反応が生起しやすい可能性がある。

(出典：佐藤鮎美 絵本遊びが親子関係によい効果をもたらすのは本当か？ ベビーサイエンス 16：18-27, 2016. より一部改変)

問1 下線部(1)の内容を、解答欄 -1に150字以内で答えなさい。

問2 絵本遊びが親子関係にもたらす効果について、「母親の応答性」という言葉を用いて、解答欄 -2に200字以内で説明しなさい。